



瀋洲建築協會雜誌

第八卷第八號

瀋洲建築協會發行

スクラッシュ・タイル

【新製貼附煉瓦】

ホロータイル

フェースブリック

機械製煉瓦

普通煉瓦◆

大連管内西山會春柳屯二番地
管口煉瓦製造所

電話九〇九七番

第八卷 滿洲建築協會雜誌 第八號

— 目 次 —

卷 頭 圖 版

- ▲南滿洲電氣株式會社社長春支店 外 觀
設計 共同建築事務所
施工 岡 川 組
- ▲同上各階平面及配置圖

本 文

- 建築と庭園 三……………岡 大 路…… 1
- 建築雜感 二……………在京都松室重光…… 14
- 左官工事に就いて 一……………福岡庄一郎…… 21
- 南滿洲電氣株式會社社長春支店新築工事概要…………… 27
- 奉天の回教寺（下）滿洲回教寺建築の研究（八）……………村 田 治 郎…… 28

插 入 圖 版

▲鐵格子の庭門(1)▲石塀中の庭門 三(2)▲木製格子垣(4)▲鐵製格子垣(4)▲日本式竹垣一般(5)▲粗石鋪道(9)▲砂利鋪道(9)▲亂石張鋪道 二(10, 11)▲切石鋪道(12)▲奉天北清真寺——大門——客廳——講堂——大殿——同塔——西洋樓——ミンバル——ミハラブ▲奉天東清真寺——大門——客廳——大殿内外及詳細——塔——ミハラブ——水房——井亭(本文末尾)

會 報

- 新入會員 □ 會員移動 □佐野博士歡迎會 □會計理事會 □寄贈圖書 □交換雜誌

- △編輯記(目次裏)……………S. 1. 生
- △表 紙……………相 賀 氏

▲編輯會といつても、原稿の取扱選擇など言ふ氣のきいた事をする譯ではありません。來月は――茲當り今日は一誰に――誰が何頁を引受けるか――といつた調子の原稿分擔會議です。ち、否感なしに引受けはならぬ當事者の身になつたら、随分迷惑でもあり、骨の折れた話です。此の甚しいのに――

▲頁埋めの由體目なら編輯者一人でも三十頁や四十頁は書けぬ事もありません。苟も滿洲唯一の純建築雜誌である以上、その本領から脱線したり、使命を辱しめる様な編輯はしたくないので、當事者の骨折は大抵ではありません。

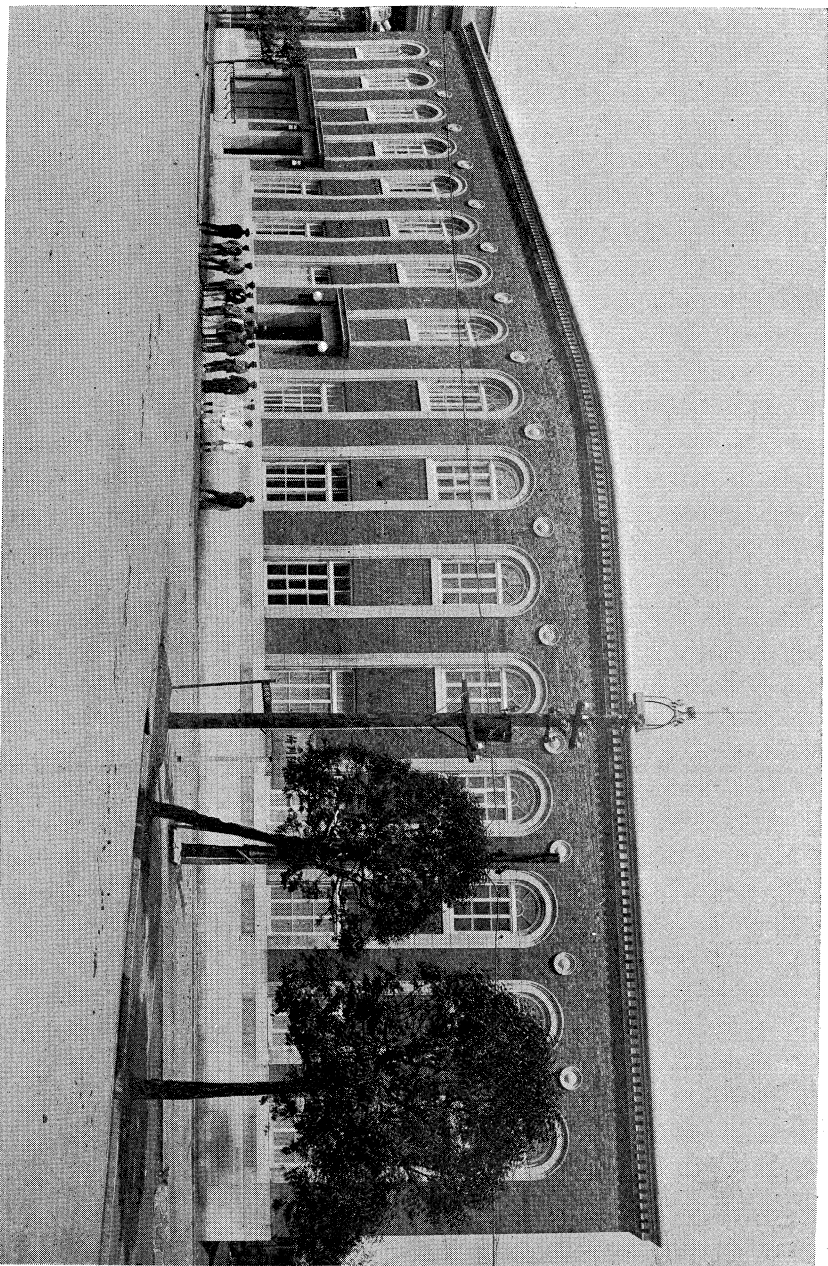
▲貴ふ、さきと曰ふには、餘りに骨が折れすぎてゐる。題材も、研究も、論調も、體裁も眞面目過ぎる程ではないてせう。

▲「顔振れと題材に變化が無い」と考へらるゝ方々があります。當事者と雖も、勿論之れは満足してゐる筈はありませぬ。他に寄稿者がありませんから、責任上よんどころなく書いてゐるのです。原稿が無いからこの理由で假令一月でも休刊したら、忽ち非難が起り、當事者はその怠慢を詫らるゝてありませう。

▲雜誌の内容に變化があり、そこから興味を引くといふには何といつても、多數の寄稿者により、色々な題材が提供され、そこで編輯會が其の場合々々に特色ある編輯をさせて貰ふといふ時代を待たなければなりません。何卒此の雜誌を各位のものとして、興味と同情と骨折りを以つて愛撫養育して下さいませう。

▲幾頁かに亘る長い原稿も尊いが、毎號讀切りの短かい原稿も誠に結構であります。「研究」とか「論文」といふたら困るさしても、「感想」なら誰にでもなければならぬものであります。同一の事像に對しても、甲の感想と乙の感想とは絶對に同一ではあり得ないのみならず、可成り異ふのが當然であります。とすれば一人の人の感想を發表することは、意外に多くの人に衝動を興へ興味を惹起することになるべきであります。只今の此の雜誌としては毎號若干感想的のものが是非欲しいと思ひます。

昭和三年八月十五日



南滿洲電氣株式會社長春支店
外 觀
設 計 共 同 建 築 事 務 所
施 工 阿 川 組